

☆チャレンジ 岩滝っこ!☆

岩滝小学校 研究推進委員会
R3. 11. 5 NO. 8

☆5-1研究授業「自動車をつくる工場」☆

10/29(金)、5-1で社会科の研究授業を行いました。前回の6年生のように、先生が「今日は…」と言い始めると「学習問題!」とつぶやく子ども達。5年生もすっかり岩滝小スタイルの「学習問題づくり」が定着しています。授業の様子を紹介します!



◆自動車クイズで導入!◆

第1問: 1日に生産される自動車の数は?

「300台、500台、10万台、1000台、4万台、5台」…たくさんのつぶやきに意欲を感じます。いろいろな予想が出てきました。数の幅が大きいです。「実は、1010台。いっぱい予想したから、答えを聞いて「へえ〜!」と好奇心いっぱいです。

「では、1時間では何台?」「1台つくるのにかかる時間は?」先生からテンポよく質問され、「えーっ、そんなに作れるん?」「えーっ、たった2分!」と、早くも、子ども達の「なんで?」かたくさん飛び出しました。

毎回たくさん手が挙がります。どの児童も参加できる導入で、主体的な学びへと向かっていきました!



◆先生の自動車が登場!◆

自動車の写真が登場。和田先生の車です。誰の車かはっきりすることで、自分事になってより考えやすくなりました。「自動車の部品には、どんなものがある?」の質問に、エンジン・ハンドル・タイヤ・ミラー・フロントガラス・ワイパーなど、たくさんの答えが出てきました。

そこで、第2問…

第2問: 自動車1台に使われる部品はいくつ? ①300個 ②3000個 ③30000個

みんながぐーっと引き込まれ、体を前に乗り出します。自分が思う答えに手を挙げます。正解が③30000個だと知って、ますます疑問が膨らみました。

◆学習問題をつくろう!◆

子ども達の「なんで?」がいっぱいになったところで、学習問題作りです。自動車やその部品について豆知識を広げた子ども達は、自分の「なんで?」を学習問題にしていきました。

<一人一人の学習問題>

- どうやって、部品をつくっているのだろう?
- なぜ、30000個もの部品を使って、2分でできるのだろう?
- 車はどのようにつくられているのだろう? 等



<5-1の学習問題>

どのようにして、
自動車をつくっているのだろうか。

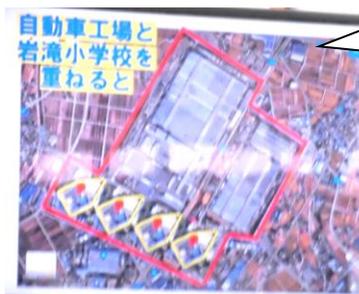
みんなの意見をまとめ、学級の学習問題ができました!

◆ヒントタイム!◆ ~ヒントとなる3つの資料を提示~

みんなが同じ方に向けて学習を進めていくために、今回は学級の学習問題について仮説を立てることにしました。ただ仮説を立てるのではなく、根拠のある仮説を立てるため、ヒントとなる資料を3つ示しました。ヒント①では、自動車工場と岩滝小の敷地面積を比較しました。航空写真の自動車工場に、岩滝小がいくつも入る様子を見て、びっくりする子ども達。身近な岩滝小の面積と比較することで、自動車工場の広さを自分事に引き寄せて考えることで「なんで?」の気持ちも膨らんでいきました。

《ヒント①》自動車工場と岩滝小の写真

《ヒント②》組み立て工場の写真



えーっ! 岩滝小が
こんなに入るん?

写真からわかる
ことを、どんどん発
表できる、よい雰
囲気です!



◆仮説を立てる!◆

写真をもっと近くで見たくて、身を乗り出す子ども達。そのタイミングで、一人一人にも写真資料が配られたので、子ども達は興味津々。「なんで?」の答えを見つけようと、食い入るように資料を読み取っていきました。自分事に引き寄せながら自動車について考え始めた子ども達は、自分が思う資料を根拠としながら、仮説を立てていきました。次回からは、自分が立てた仮説と照らしながら、学習問題を解決していきます。

<子ども達が立てた仮説>

- 人と機械が協力して、部品を取り付けているのではないか。
- 工場がとても大きいから、つくる場所を分けて組み立てているのではないか。
- 部品ごとにチームに分かれて作業しているのではないか。
- ベルトコンベアで自動車が流れていって、組み立てているのではないか。等



* 子ども達の「なぜ?」を引き出す導入を工夫することで、児童自身が「学習問題」を作り、「自分ごと」に引き寄せて学習を進めていけるような授業づくりを、これからも大切にしていきます。